

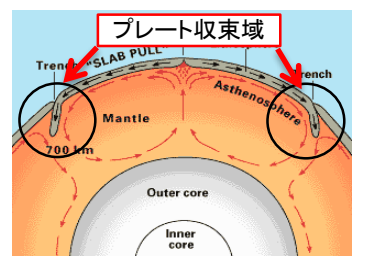
プレート収束域の物質科学研究拠点

研究拠点リーダー： 井上 徹（理学研究科）

プレート収束域での諸現象を物質科学的見地から解明

目標

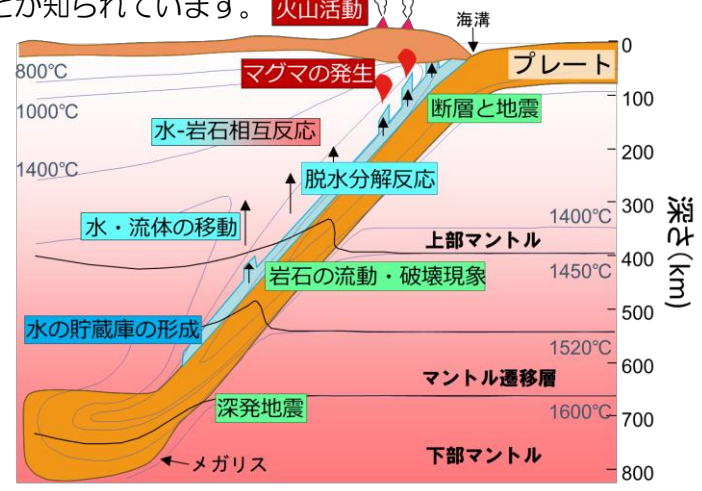
プレート収束域で生じている「水と岩石の相互作用」の重要性に着目し、地球科学的諸現象、特に地震活動や火山活動のメカニズムを物質学的見地から解明することを目指します。



マンテル対流概念図

背景

地球は「水の惑星」として知られており、表層には莫大な水が存在します。この水はプレート収束域において海洋プレートを構成する岩石と共に地球深部にもたらされています。この「水」こそが、プレート収束域で発生する地震活動や火山活動など多くの変動現象のトリガーとなっていることが知られています。



プレート収束域で生じている重要な現象

活動内容

学内外との連携

プレート収束域の物質科学研究拠点



広島大学

海洋研究開発機構

プレジデンシー大学 (インド)

連携機関

愛媛大学 地球深部ダイナミクス研究センター

バイロイト大学 (ドイツ)

ストーンブルック大学 (アメリカ)

研究活動の推進

プレート収束域での地震
活動・火山活動の解明

岩石と水の循環

断層運動と地震発生の素過程に与える水の影響

マグマ発生過程に与える水の影響

効果

- 学際的研究体制の確立
- 若手研究者や大学院生の国際化

拠点内外との国際研究連携

研究力の向上

世界トップレベルの研究拠点

- 質の高い論文の増加
- 外部資金の獲得増
- 拠点運営の自立化

- 国際的にユニークなプレート収束域研究拠点へ
- 世界的レピュテーションの向上